

合同訓練で水防体制強化

本格的な雨期を前にした5月30日、消防団、女性防火推進隊、消防本部、市役所が合同の水防訓練を川口市民公園で行いました。

同訓練は、水防工法の基礎的技術を習得し、水防体制の強化を図ろうと、毎年実施されています。

7小隊に分かれた約150人の参加者たちは、「訓練はじめ」の号令を合図に、6小隊が水防工法訓練、女性防火推進隊による1小隊が災害炊き出し訓練に取り組みました。

水防工法訓練では、スコップで土をすくって袋に詰め、次々と土のうを作製。その後、土のうを積み上げ、堤防から水が溢れ出すのを食い止める「積み土のう工法」など、3



水防工法に取り組む参加者たち

種類の工法を実践。参加者たちは迅速に土のうを積み上げていき、工法を完成させていました。

また、京都市消防局航空隊との連携訓練も実施され、ヘリコプターでの援助物資の搬送や、中州に人が取り残されていると想定した降下・吊り上げ救助が行われました。



ヘリコプターに遭難者を吊り上げる航空隊員

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

毎日 歯磨き大事だね

6月8日、わかたけ保育園で2〜5歳児103人を対象とした歯科指導が行われました。

この指導は、園児たちに虫歯の予防方法や正しい歯の磨き方を学んでもらおうと、歯科衛生士の先生を講師に招いて実施されました。

はじめに、講師がバイキングマンのパネルを使い、虫歯になってしまふ食生活などを説明。虫歯の予防に大事なことに「毎日、歯を磨く」「お菓子やジュースは3時のおやつ

まで我慢する」「食べ物の好き嫌いをしない」を挙げ、園児たちはこの3つを守ることを約束していました。

また、3〜5歳児は正しい歯磨きの仕方勉強。奥歯は歯ブラシを手のひら全体で握って前後に、歯の側面はえんぴつ持ちで左右に、小刻みに磨く園児たち。5歳児は他の歯に比べて虫歯になりやすい6歳臼歯の磨き方も教わり、歯磨きの大切さをしっかりと学んでいました。



歯を磨く園児たち

高校生が縄文土器作り

6月2日、京都八幡高校で縄文土器についての4回目の授業が行われ、社会科学、工芸科学コースの3年生40人が、縄文土器の文様付けに取り組みました。

この授業は、日本史を学ぶ生徒たちに、土器の作製を通して縄文時代の暮らしに思いをはせてもらおうと、講師に京都府立山城郷土資料館の職員を招いて行われました。

前回までの授業で生徒たちは、縄文土器の歴史などを学び、作製する土器のデザインを考え、粘土から成形を行ってきました。

今回は成形を完成させ、いよいよ文様付けに挑戦。よりひとを土器に当て、縦や横に転がして縄目を付ける生徒たち。ほかにも、貝殻や竹、ヘラなどを使い、自由にデザインを施していました。

この後、土器は約2週間乾燥させ、約800度の窯で素焼きして完成となります。

北野悠月君(17)は「昔と同じ道具で文様を付けるのが難しかった。現代にない生活も感じる事ができました」と縄文文化への理解を深めていました。

八幡市出身プロ棋士迎え 第17回 佐藤康光杯争奪将棋大会

八幡市出身のプロ棋士、佐藤康光九段を迎えた「第17回佐藤康光杯争奪将棋大会」が6月21日、文化センターで開催され、市内外から244人が参加しました。

この大会は、佐藤九段が平成10年に第56期名人位を獲得したことを記念し、平成11年から毎年開催されています。

開会式では、佐藤九段が「持てる力を十二分に出し切って、悔いの残らないように一局一局を指してください」と話し、参加者たちを激励。大会は段位や

多面指しで 子どもの指導も



子どもたちと対局する佐藤九段

年齢ごとに5階級で行われ、参加者たちは日ごろの練習で培った実力を試そうと、盤上で熱い戦いを繰り広げていました。

また、佐藤九段は小学生以下の初級者12人を相手に多面指しによる指導も行い、終局を迎えた子どもには、勝負を分けた一手などを丁寧に説明していました。

佐藤九段と対局した下奈良在住で市内の将棋教室に通う後藤拓磨君(8)は「佐藤九段は強かった。アドバイスをもらってなるほどと思ったので、大会でも優勝できるように頑張りたい」と話していました。